令和６年７月号

片山小だより

か かしこく　た たのしく
や やさしく　ま まけない心

学校教育目標　思いやりのある子　自ら学ぶ子　たくましい子　【 校訓　誠実　勤勉　剛健 】

経験から学ぶ！片山っ子の未来を信じて！

校長　戸髙　正弘

私が小学校低学年の時のことです。いつも遊ぶのは、私よりも少し上のＳ君を一番年長に下は4,5歳の小学校に上がる前の子たちで年齢がバラバラの子どもたち7,8人でした。「かくれんぼ」「だるまさんが転んだ」「缶けり」などをした思い出があります。特に「鬼ごっこ」の際には、Ｓ君が鬼になった時は、わざとみんなのことを大げさに追いかけ回します。小さな子たちも「ワァー」と言いながら逃げていき、スリルを十分に感じさせてくれます。しかし、小さい子にはタッチはしません。比較的年齢が上の子たちにタッチをして鬼を代わっていました。そこにはみんなで楽しむということを優先に考えていたのだと思います。

当時の子どもたちの生活では、近所のガキ大将というような年長の存在がありました。ときには喧嘩をしても、いつも年長者が上手に対応し、大きなトラブルにならなかったのではないかと思います。年齢が違う集団の中で、年上が自然と年下の子を大切に扱い、年下の子が年上を敬うようになっていったように思います。そこには古き良き時代の子ども文化が成立していたのでしょう。

どんぐり学級でも似たような場面が多く見られます。高学年は自分が楽しむだけではなく、下級生が楽しむためにはどうすれば良いか、その観点において自分がやりたいことを下級生に合わせて時には内容を軽減して実施するなどの工夫が出てきます。そして、みんなで楽しむことの大切さを学び、お互いに敬う関係ができてきているのです。見ていて本当に感心するばかりです。

本校ではたてわり活動を「片山タイム」と呼び、6年生から１年生までが楽しく遊び、異学年で交流することができるような活動を行っています。7月10日にはご家庭で作っていただくお弁当をみんなで一緒に食べ、その後楽しく遊ぶ時間をとっています。現在、計画立案委員会の児童を中心に高学年が企画を練って楽しい時間にしようと準備しています。

時代は変わり、今や縦のつながりが希薄になりがちな中、たてわり活動は大変貴重な有意義な経験になると考えます。

その上で最近は斜めの関係がさらに大切であると言われています。まさに、親御さんや友達ではない、地域の皆さんの存在です。夏休みには、片山・道場町内会での夏祭りを大変楽しみにしています。たくさんの地域の皆さんとの関わりがとても大切です。

「信じることの大切さ」

まもなくパリ五輪が開幕されます。代表内定などの話題がニュースなどで大きく報道され、機運が高まってきました。今からワクワクしています。

さて、東京五輪では、女子バスケットボールチームが銀メダルに輝きました。その時のキャプテンが次のように話しています。五輪に出ることだけでも大変な中、トムホーバスヘッドコーチの「金メダルを目指す！」との言葉に当初は戸惑ったそうです。しかし、常々ヘッドコーチは「自分を信じなさい。あなたはこれが得意なのだから、2、3回失敗してもやり続けなさい」と。その言葉に選手は奮起して周囲の予想を大きく覆し、格上を破り、見事銀メダルという快挙を成し遂げました。

子どもの良いところを見つけ、それを伸ばすためには、多少の失敗を認め、励ましを送り、次のチャレンジを見届ける、その繰り返しの中でしか、成長していくことはできないものだと教えてくれている気がします。片山っ子が未来の社会で、そして世界で活躍する姿を思い描きながら精一杯エールを送ります。